

令和3年度活動状況

1. 平成29年九州北部豪雨災害からの復旧・復興状況の調査

平成29年7月九州北部豪雨災害から4年が経ち、現在までに復旧・復興がどの程度進捗しているのかは、報道等では断片的な内容は公表されていますが、今一つ実感できません。また、大分自動車道で付近を通過しても地形の関係や植生等でわかり難いものです。

当NPO法人研究機構ジオセーフとしましては、被災現場が現在、どのような復旧・復興状況にあるのかを実際に現地で調査し、中山間地域に今後とも発生する可能性がある集中豪雨災害の問題点や課題について、少しでもご理解を深めることを目的として、この調査が実施されました。

残念ながら、コロナ禍の中、参加者は限られましたが、平成29年の豪雨災害後の地盤工学会の調査団のメンバーであった安福副理事、笠間理事にはお忙しい中、時間を割いて参加して頂きました。また、同じくその調査団に参加されていた九州大学大学院の古川助教および八尋技術員にも加わって頂くことができました。みなさまのご協力に感謝いたします。

成果は、「平成29年7月九州北部豪雨 地盤災害からの復旧・復興状況の調査報告書」として別途ホームページに掲載させて頂きました。



写真-1 工事が進む日田市小野地区



写真-2 乙石川上流の崩壊現場の工事状況
(朝倉市乙石地区)

2. 西九州自動車道道路法面施工技術検討委員会への参画

国土交通省九州地方整備局佐賀国道事務所の委員会

(委員会設立趣旨)

2018年10月に供用中の西九州自動車道で切土のり面崩壊が発生した。この崩壊箇所周辺は、第三紀の堆積岩類からなっており、その特徴的な風化特性や長大切土による地下水環境の変化などの複雑な要因が絡んで崩壊に至ったとされている。

西九州自動車道伊万里松浦道路・伊万里道路においては、今後も設計・施工が進められ

ていく予定であり、この崩壊を教訓として、第三紀の堆積岩類が潜在的にもつ崩壊要因を明らかにして、それを踏まえた調査設計施工マニュアルの作成を目指すものである。

(委員名簿)

委員長 安福 規之 九州大学 教授 (当 NPO 副理事長)
委員 池見 洋明 日本文理大学 准教授
" 石蔵 良平 九州大学 准教授
" 落合 英俊 九州大学 名誉教授
" 佐藤 研一 福岡大学 教授
" 日野 剛徳 佐賀大学 教授
" 矢ヶ部秀美 NPO 法人研究機構ジオセーフ 理事
" 松尾 誠二 国土交通省九州地方建設局道路部 特定道路工事対策官
" 沓掛 孝 国土交通省九州地方整備局佐賀国道事務所長

(活動状況)

第 3 回 西九州自動車道路路面施工技術検討委員会

令和 3 年 10 月 29 日 (金)

検討内容： ・新しい調査・設計・施工・維持管理フロー (案)
・マニュアルの構成内容 (案)

第 4 回 西九州自動車道路路面施工技術検討委員会

令和 4 年 3 月 15 日 (火)

検討内容： ・道路切土法面における調査・設計・施工と維持管理
につながる技術指針 (案) —西九州自動車道への適用—

3. 2022 年海域港湾空港技術報告会の開催

コロナ禍のため、報告会は、2022 年 2 月 25 日 (金)、13:00~17:40 において、オンライン (Teams) で開催されました。九州整備局港湾空港部および九州大学大学院工学研究院海域港湾環境防災共同研究部門主催で、当ジオセーフも共催させていただきました。

参加者は、オンライン開催で実数が定かではありませんが、過去最多数の 400 名以上の方々が参加されたことがわかっています。

報告会は、松良 精三 九州地方整備局副局長のご挨拶から始まり、橋本典明 九州大学大学院工学研究院 附属アジア防災研究センター 教授が報告会の趣旨について説明されました。

第 I 部は、全国の先進的土木技術の紹介でした。「GWM と AI を利用した 1 週間沿岸波浪予測」(2020 年度日本港湾協会論文賞受賞) と題して京都大学 防災研究所名誉教授の間瀬 肇さまよりご講演をいただきました。

第Ⅱ部は、注目される最新の技術動向についてと題し、2題のご講演を頂きました。

◆ 港湾工事等に係る新たな課題への対応について

村岡 猛（一般社団法人 日本埋立浚渫協会 参与）

◆ 不均質な浸透固化処理地盤の品質の評価について

長山 達哉（九州地方整備局 博多港湾・空港整備事務所長）

第Ⅲ部は、産官学の技術展望と題して、8編の技術の報告があり、質疑応答がなされています。

最後に当ジオセーフの江頭監事に締めて頂きました。

* 2022 海域港湾空港技術報告会 in 福岡のリーフレットと報告会のプログラムを資料として掲載しています。

—以上—